

佐渡相川の鉱山及び鉱山町の文化的景観

No.15-02

所在地：新潟県佐渡市 選定年月日：平成27年10月7日 面積：630.1ha 選定基準：二(一)(六)(七)(八)

(1) 概要

相川は、標高約300mの山地から海成段丘を経て狭い海岸低地が続く地形上に位置します。16世紀末、相川で鉱脈が発見されると急速に鉱山開発が進みました。慶長8年(1603)に佐渡代官に任じられた大久保長安(ながやす)は、上町(かみまち)台地の尾根線上に幹線道路を敷き、沿道に大工町など職業別の町立てを行いました。17世紀前半には海岸沿いの下町(したまち)で埋め立てを伴う町立てが行われ、上町と下町とをつなぐ段丘崖に石段等が発達しました。

18世紀に金銀の産出量が激減すると、上町等に散在していた鉱業関係施設が佐渡奉行所内に集約されました。他方で商人の中には廻船業等で財を成す者も現れ、下町には蔵を伴う大規模な地割りの廻船問屋等が並びました。近代には鉱山が三菱へ払い下げられ、上町には間口が広く通りに面して庭を有する社宅も立地しました。下町には相川町役場等の公的機関が立地し、行政機能を持つようになりました。

現在も上町においては、尾根に沿って開かれた通りに面した短冊状の地割りが継承され、各敷地では通り沿いに平屋を配し、背後に段々と降りる建物の構成をみることができます。下町は旧街道沿いに展開する近世以来の地割りを継承しつつ、海岸部を埋め立て佐渡市役所支所等が配置され、行政機能を維持しています。

当該文化的景観は、上町地区の生産・居住機能、下町地区の流通・行政機能が、金銀採掘の盛衰に伴い動的な関係を構築しつつ展開してきた相川の歴史の変遷を示す景観地です。



春日崎から望む相川の上町・下町



鉱石を運搬するための鉱車の軌道跡

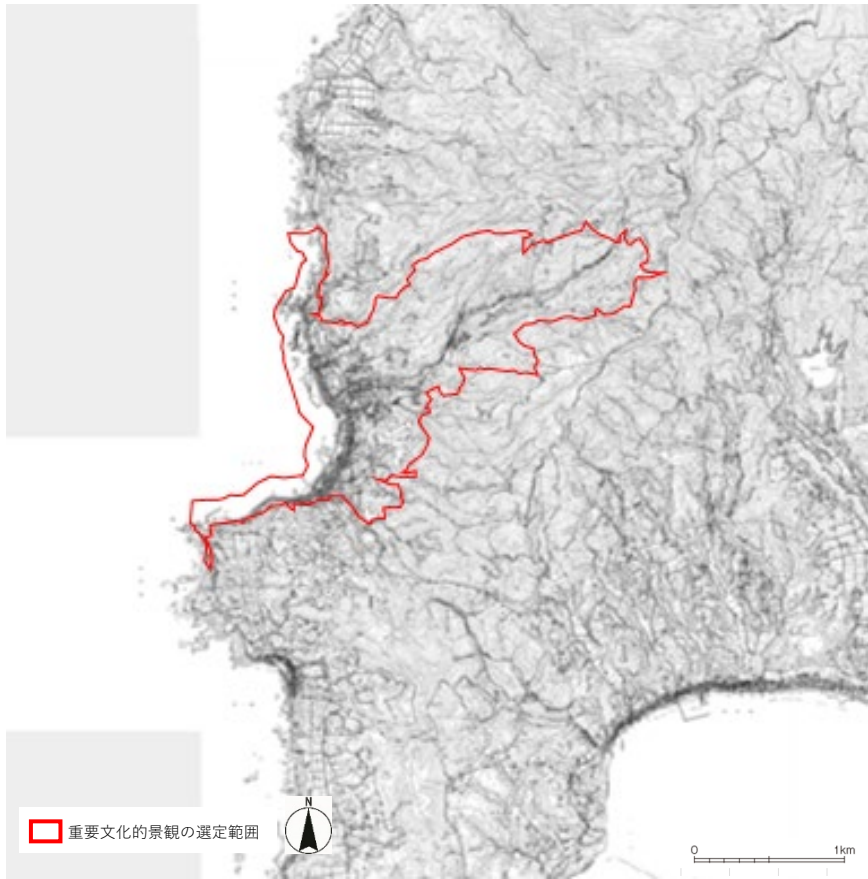


テラス状の敷地に建てられた鉱山住宅(上町)



善知鳥神社例祭の神輿や高張提灯の行列(下町)

（２）選定範囲



- 重要な構成要素：79件
- 国指定等文化財：旧佐渡鉱山採鉱施設（重要文化財(建造物)）
佐渡金銀山遺跡(史跡)、旧相川税務署、
旧相川拘置支所（登録有形文化財(建造物)）

（３）選定による効果

近世期の鉱山発見により発展した相川では、約400年間に渡り採掘が続けられてきました。平成元年の閉山以後、基幹産業の衰退などにより、地域の歴史や文化、アイデンティティの再構築を図るため、約4年の調査によって文化的景観の価値付けがなされました。

選定後は、鉱山町としての景観を後世に継承していくため、住民とワークショップを行い、令和2年に重要文化的景観の整備計画を策定しました。近年は、民間団体などと連携を図り、古民家の再生や活用、イベントの開催などが行われています。



佐渡金銀山遺跡「道遊の割戸」



住民とのワークショップ

（４）保存活用計画などの基礎情報

- 佐渡相川の鉱山都市景観保存調査報告書（平成27年3月、佐渡市）
- 佐渡相川の鉱山及び鉱山町の文化的景観保存計画書（平成29年3月、佐渡市）
- 佐渡相川の鉱山及び鉱山町の文化的景観整備計画（令和2年3月、佐渡市）
- ホームページ

<https://www.city.sado.niigata.jp/site/mine/4471.html>

(5) 活用事例

事例15-01,02 ①

民間所有の建物などの修理支援 ～間接事業の佐渡流サイクル～

文化庁補助金

●行政による取り組み

民間所有の建物などの修理事業に対しては、佐渡市が、工事経費の補助に留まらない、技術的・経済的な支援を行っています。

市は、1年目に修理要望の把握と集約、2年目に建物の調査と設計図書の作成、3年目には補助金の交付に加えて工事監理業務を担っています。毎年、複数の事業を実施するため、全体としては1年目・2年目・3年目段階の異なる事業が並行して行われる状態が保たれており、独自の事業サイクルを構築しています。

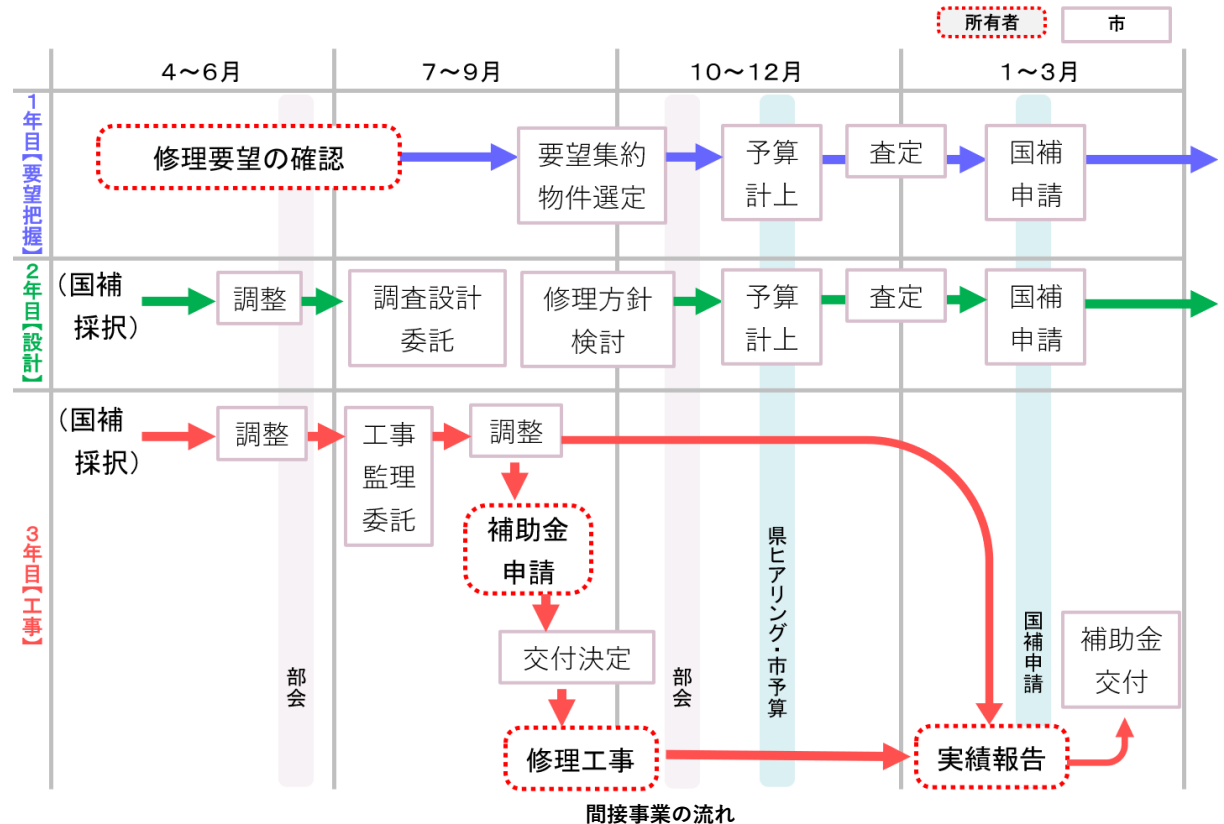
年に2回、補助の対象や修理方針などの検討にあたり専門家から成る部会を開催し、専門家会議に報告を行いながら進めています。歴史の痕跡の一つでも多く残すため、所有者などと協議・検討を重ね、取り替える部材を最小限に抑え、可能な限り古材の再利用を図っています。



集落内の主屋 修理前



集落内の主屋 修理後



修理に携わった人の声

工事では、外壁材や屋根瓦などを一つひとつ丁寧に取り除いて状態を確認するのに苦労しました。でも、こういった取り組みの積み重ねによって、建物や景観が維持・向上していると実感しました。

（５）活用事例

事例15-01,02 ②

世界文化遺産「佐渡島の金山」を中心とした、官民一体の取り組み

文化庁補助金

●行政による取り組み

新潟県と佐渡市では、平成18年から「佐渡島の金山」の世界文化遺産登録を目指した取り組みとして、多くの調査成果が蓄積され、文化財の指定、選定、登録などの件数が飛躍的に増加しました。

市内2箇所の重要文化的景観においては、専門家会議や地域住民などとの話し合いにより、歴史的な建物の修理・修景などが進められてきました。

また、平成31年4月には、佐渡金銀山の歴史や文化財の価値を伝えるガイダンス施設「きらりうむ佐渡」が、相川に建設されました。ここを起点に、各地の関連文化財や施設を訪ねてもらうことを目的としています。

景観に配慮した平屋建ての館内には観光案内所を設け、レンタサイクルの貸し出しのほか、来訪者に楽しんでもらえる各種イベントや講演会などを行っています。

施設利用者の声

佐渡金銀山の歴史が4つの映像シアターで、わかりやすく学べました。定期的にイベントも行われているので、子ども達にも親しみやすく、相川に新たな魅力が加わってうれしいと喜んでいます。



佐渡金銀山ガイダンス施設 きらりうむ佐渡



重要な構成要素でもある
重要文化財「松栄家住宅」（平成30年指定）



まちを知るための企画展（風景展）の実施



住民も出演した、ガイダンス施設の映像

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
共有

③ 広域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり・
人づくり

（５）活用事例

事例15-02 ③

歴史的な建物などの活用によって町並みを守るNPO活動

●住民や団体等による取り組み

平成22年に地域住民で結成されたNPO法人「相川京町並み保存センター」では、鉱山労働者や古老などへの聞き取り調査、鉱山で使われた石製品の保存、使われなくなった建物の活用などを行っています。これらの長年の活動によって町並みが維持・保全され、佐渡民謡を披露する「宵乃舞」イベントにもつながっています。

また、近年では佐渡市と民間団体が連携協定を結び、歴史資源を活かした地域づくりを推進しています。若手住民で結成された相川車座では、まち全体を博物館に見立て、100年後の未来へまちなみを受け継ぐことを目的に、空き家などを飲食店舗や宿泊施設に改修したり、重要文化的景観範囲内にある史跡などでイベントを開催するなどの活動を展開しています。

地域づくりに関わった住民の声

文化的景観をきっかけに、地域に埋もれている資源の掘り起こしが行われました。地域の人と訪れる人とが互いに気持ちよく、交流していけるような環境づくりを目指していきたいです。



石造物のまちなか展示



飲食店舗への改修（北沢teracce）



「宵乃舞」が行われる京町通り



史跡でのランタンイベント

団体等情報： 相川車座-100年後にもぎやかな相川を目指すまちづくり <https://aturn.jp>

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す

⑤ 資源と
運用

⑥ 人づくり・
人づくり